
[J] 口頭発表 | セッション記号 O (パブリック) | パブリック

[O-02] 地球科学とアートの相互作用

コンビナー: 荒木 優希(金沢大学)、豊福 高志(国立研究開発法人海洋研究開発機構)、長井 裕季子(国立研究開発法人 海洋研究開発機構)、石田 翔太(横浜市立大学)、座長: 荒木 優希(金沢大学)、長井 裕季子(国立研究開発法人 海洋研究開発機構)

2025年5月25日(日) 15:30 ~ 17:00 展示場特設会場 (5) (幕張メッセ国際展示場 7・8ホール)

固定概念に囚われない科学の新たな発展を目指し、世界各地でアートの哲学的思想を取り入れる試みが進んでいる。このアプローチは、新たな課題を探究する能力や、問題の本質を俯瞰して捉える力、さらにはその成果をマルチモーダルにアウトプットする能力を育むことが期待されている。しかし、その効果を実感する機会はまだ少ない。昨年開催されたパブリックセッション「なぜ生物は生体鉱物を作るのか？」では、生体鉱物をテーマに、科学者とアートの専門家がそれぞれの視点から科学とアートの融合について議論し、互いにどのような相互作用を及ぼしうるかを考察した。多くの来場者が集まり、科学の合理性とアートの哲学性による新たな知の共創が可能であることを見出した。本セッションでは、昨年のセッションから生まれた新たなコラボレーション事例も始め、地質学や火山学、生体鉱物学などの地球科学分野の科学者と、デザインや工芸など幅広い分野のアーティストとの協働例を紹介し、アート思考が地球科学の発展にどのように寄与しているかを探究する。

16:48 ~ 17:00

[O02_25PM1-7add]Discussion